

3月 ミーティング記録

日時：2024年3月28日（木） ネットミーティング

出席：TN*、TT*、(ST)、NH*、YY*、(YH)、(MY)、(RY)、(AY)、TO* *はネット参加、()は欠席

山行報告（2/23～3/28）

CSS：クライミング研究会 SKN：スキーネット

No.	日程	山名	形態	参加者
1	2/27	伯耆大山	講習	TN
	日本雪崩ネットワーク主催、雪崩捜索・救助に特化した基礎講習。報告者以外全員スキーヤー。偶然居合わせたメンバーが如何に統率の取れたチームとして動けるかを意識した講習。講師の経験を踏まえた助言は勉強になった。持参したビーコンは送信モード自動復帰機能がOFFにできず、練習の妨げになった。			
2	2/28-2/29	伯耆大山	雪山PH	TN
	大山での雪崩講習に引き続いての山行。晴天の少ない大山で、28日はピンポイントで晴れた。平日にも関わらず、登山者多数。積雪は少なく、下部木段も山頂手前の木道も一部露出していた。1,300m付近で固まらず流れやすい雪質になった。六合目避難小屋からアイゼンを装着し、灌木の樹氷トンネルを登る。山頂台地は強い日差しで春山を思わせるエネルギーに満ちていた。弥山から眺める剣ヶ峰方面は気品と無垢な色彩を湛え、静かに心を打った。下りは予定変更して元谷に下り、避難小屋で宿泊して翌朝下山した。この山行から帰宅した直後に、避難小屋のすぐ近辺で痛ましい雪崩事故が起こった。			
3	3/10	綿向山	雪山PH	TN TO
	作業道整備のため3年ほど表ルートが閉鎖される綿向山に登った。今シーズンは雪が少ないが、前日にいいタイミングで雪が降り、期待した通り樹氷を見ることができた。入山者は多く、60回以上綿向山に登っているという地元の方のすすめで北尾根に立ち寄った。天気は全般に曇りがちだったが、琵琶湖側から伊勢湾側まで見渡すことができ、眼前に迫る雨乞岳と後ろに連なる鈴鹿の峰々・伊吹山等々を含むダイナミックな景色が楽しめた。偶然当会のHさんにもお会いした。ルートは短く、わかりやすく、無理なく登頂できることもあり、人気の山であることがうなづけた。表登山道閉鎖を機会に、竜王山経由周回や、雨乞岳への縦走も企画してみるとよいのではないかと思った。			
4	3/16	北ア焼岳	雪山PH	NH他1
	3年ぶりに南峰に登った。日本百名山の焼岳の三角点は南峰であるが、岩がもろく冬場の積雪期しか登れない。ルートは山地図では掲載されておらず、先行者が雪崩の危険の少ない尾根にステップを刻んでくれていた。今年は春の訪れが早く、この時期でもう所々で雪崩の予兆が見られた。この日は終日雲量ゼロの超快晴で、笠～西穂～奥穂～前穂～、間近に素晴らしい景色を満喫した。			
5	3/17	旗振山・田中山・妙光寺山	縦走	TT ST TN TO他1
	野洲のセブンサミットに登った。アップダウンの連続で良いトレーニングになったが展望が良く史跡の多いルートだった。			
6	3/27	長等山・逢坂山	縦走	TN
	読図講習ルート下見。大津京早尾神社～長等山テラス～長等山～如意越～小関越～			

	逢坂山～京阪上栄町手頃なコースだった。前後の雨の日に挟まれた晴天で、若干霞んでいたが湖南から湖北まで山々がよく見えた。長等山テラスは当然ながら、逢坂山はそれに優る眺めの良いスポット。逢坂山の南で西に送電線を横切り、無名の小ピーク2つを往復してから下山。雨の後は若干ぬかるんで滑りやすい場所もあるので足運びに注意が必要。			
	3/27	大文字山	縦走	TT
7	銀閣寺道 13時…大文字山…楼門の滝…大日山…日向大神宮…蹴上 16時40分 ガイド下見で銀閣寺から火床を経て大文字山三角点へ。京都市内の眺めが良い。鹿ヶ谷道を楼門の滝まで下り、分岐まで引き返す。大日山へ向かう。倒木箇所はきれいになっていた。枝道が多い。			

山行計画

No.	日程	山名	形態	担当
1	3/31	飯道山	PH	TO
2	3/31	長等山・逢坂山	講習	TN
3	4/14	山科～逢坂山	縦走	TT
4	4/21	県連初級登山教室	講習	TN
5	4/25-30	台湾の山	PH	TT
6	4/27	県連読図講習（長等山・逢坂山）	講習	TN
7	4/28	県連初級登山教室	講習	TN
8	5/3-4	立山スキー（SKN）	BC	TT
9	5/3-4	北穂高岳	残雪期 PH	NH
10	5/5-6	涸沢岳	残雪期 PH	NH
11	5/5-6	堂満岳・武奈ヶ岳	テント泊	TO
12	5/12	県連初級登山教室	講習	TN
13	5/19	県連初級登山教室	講習	TN

その他：

年次総会 4月14日（日）14:00～ JR大津駅ザ・カレンダー